天地一切清浄大神業
大和神道禊祭

五月三日、開祖様奥都城の納骨処を十四年ぶりに検証させて頂いた。施工後の埋納前に水の上がりし経緯があり、ご神託をもっての智恵を拝受、再清めと施工す。いささかの不安もありしが水の上りも不浄も全くなく誠に綺麗に埋納されていた。安堵す。信者の皆にも奥都城の清めの仕方を授けたいものと思う。

五月十八、十九日は統理の下、禊大行が行修ざる。私が前回の壱千日大行の行徳として神授されし奇すしき行法〝三位体霊性統魂の秘行〟ではある。吾が生身之御魂・先祖之御魂・前世之御魂を清め統める御魂に甦らす神業であり、祈祷による他力の行に加え、自修による自力の行である。これにて大き救いの道が神図られてきた。

水無月に入り一日の月始祈願祭も教主日参謹行祈祷の布教が少し停滞しているをみる。昨年の九月一日よりの動きにて十ケ月を経た。人間は時が経ると次第にその動きはぬるくなる。されど信仰にあってはその逆とならねばない。まだまだ謹行の尊さと神威が布教教化されていないは残念ではある。

六月七日、金剛蔵王大権現像の設置位置を最終決定するに立ち会い、今日より基礎工事に着手す。十八日には大型クレーンにて所定の位置に据え付けられた。八時三十分に始まり十二時三十分頃まで作業がかかったようだ。完了との連絡にて再び神社に戻る。石彫像ながら木彫像の迫力に決して見劣りするものではなきを実感す。石匠石駒四代目駒蔵氏の大作である。昭和四十八年に、我が教団の大國主大神を大物生大神と称えしの大石像を製作なし納められ、その後、何故かしら導かれるままに、蔵王石をもって蔵王権現を彫り始めたという。平成八年に没するまで鑿を入れ続けたが、残念ながら完成をみることは出来なかったという。私の大國神社に祀りたいとの意を受けて、我が御神像製作の折に少彦名命を彫られた多田剛氏に総仕上げを願っての完成となった。見事な彫像となった。世の多くの人の救いとなるを断ずるものである。四十年余を経てここに甦るの奇すき神縁をみるものとなった。石駒四代・五代・六代と継承せる権現像となる。受像せる私共にとりても、開祖様、教主、そして嗣親三代に継承となる。誠に芽出度きことではある。六月三十日に建立清祓い、御神入、奉告祭が斎行される。此度は私が斎主奉仕とはなん。

六月十六日より六月二十三日迄の八日七夜にて大宇大宙清む天地一切清浄大神業の禊祭が執行された。十六日の御神像お清め之儀より始祭され、還幸祭をなし、十七日より二十二日早朝までは神在祭、午後よりは前日祭、二十三日は本祭と順次斎行された。

私は神在祭と本祭を奉行させて頂いた。六日間の神在祭において、祈りの様を連日御神導を拝し奉った。そして御神導の任に改めさせて頂いた。これまでの心足らずを思い知るものとなった。教主として猛省すばかりである。この期間、晴れ雨の変化せる日とはなりしも、本祭の雨もよいの天候を陽差しある天候へと乞い願った。その如きの天候を拝し奉るものとなった。誠に有り難き神威に手を合わすばかりである。内拝殿、外拝殿と参行者で埋められた。神人合和す気の充ち満つる斎場となり、大市神山大國神社が高天原と化した。我が身体に熱き気の巡るを感応するものであった。顧問・相談役の先生方もお忙しい中、長時間参列下された。有り難きことである。参行者は昨年の倍とはなり嬉しきことである。教信奉者皆の熱き心、想いを全身全霊で応受すものである。三時間にも及ぶ神業ではある。怪我災難なく修祭を見るは感謝に耐えなきことである。老若男女、正に神身となりての天地一切清浄の大神業となった。必ずや万人をもっての行事とせねばの想いを強く心に雄走す我が身である。神界より天神地祇を招ぎ迎え、霊界よりは御位神・随霊を、現界よりは参行者の生御魂を迎えての三界調和の大神業奉仕とはなん。まさに〝大和の大御名で　此の世を清め為せ〟の御教えの顕現の大神業である。

大神に、御霊に、参行せる教師、役員、信者の皆に心よりの感謝を申し上げる神身成就の祈蹟のみそぎ祭となった。

熱き血が我れの身体を駆け巡る
天地清む大みそぎわざ
幼児の祈れる姿愛らしく
神人ともに和み禊がる

令和元年六月二十三日
壱千日謹行二九六日
教主

大和の光
7月号
《発行所》
大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代)022-261-2525番
振替 仙台02220-3-45512
発行人 大和教団　定価50円

神紋
八咫鏡と太陽をかたどったもので、国家の隆昌と世界の共存共栄を意味しております。

大和の言霊
本教の教理とは人を生かす、物を生かす、一切を生かす教えである。自分だけを生かす教えではない。
(大和神典 第一之〇九三言)

教主様誕生奉告祭並祝賀式典
相談役 渡辺博先生古希の御祝

教主様・教母様を真中に渡辺先生ご夫妻とご家族揃っての記念写真

実際のご修行のご様子は皆中々拝見する機会もなく、生きるための根本教育を説かれ、幼き子たちの命、お年寄りなど弱者を救うべく修行であることに参列者は感嘆をされた。

続いて、教主様のお誕生日を祝う会の大泉鉄之助会長より開式のご挨拶が述べられ、祝賀式典が開式された。

初めに教師階位授与式が執り行われ、この度、目出度く教師資格を有した教信奉者等が登壇、有難くも教主様より直々に階位證が授けられた。次に、支部長委嘱状授与式が行われ、新たに相双分祠所属の苅宿幸子さんが支部長に任命された。

大泉鉄之助会長式辞

続く社会福祉献金授与式では仙台市、日本会議、日本盲導犬協会、北朝鮮による日本人拉致被害者家族連絡会に教主様よりそれぞれ献金された。献金後、仙台市副市長藤本章様よりご挨拶を頂き、盲導犬協会よりご挨拶と感謝状が贈呈された。

次いで渡辺博先生ご夫妻に統理様と歩様より花束と記念品が贈呈され、教信奉者代表、教師会・婦人部・青年部の代表とご家族から、教主様、教母様に花束やお祝品が贈られた。

感謝と御礼を述べられる渡辺博先生

盲導犬協会より感謝状を賜る教主様

苅宿幸子新支部長

ご家族お揃いでの記念撮影の後、祝辞を顧問衆議院議員土井亨先生、相談役の宮城県議会議員相澤光哉先生、同じく仙台市議会議員菊地崇良先生より頂き、渡辺博先生からは、この度のお祝いに関しての御礼が述べられた。

相談役菊地崇良先生

相談役相澤光哉先生

顧問土井亨先生

藤本章仙台市副市長

顧問和田政宗先生

結びに教主様が謝辞を述べられ、閉式となった。（三頁掲載）

式典の後、祝賀会が開会、先ず鏡開きが行われ、大床上には教主様をはじめ来賓の方々が登壇、家族会元事務局長の増元照明氏の乾杯の発声のもと盛大に乾杯を執り行った。

大床上ではケーキセレモニーへと続き、教主様、教母様、渡辺博先生御夫妻の元へは特大の誕生ケーキが届けられると、大扇子で灯明の御神火が参列者に向けられ御稜威が蒙ふられた。

祝宴では田中道敏教師率いる大和歌劇団の面々による歌や踊りなどのパフォーマンスが繰り出され会場は爆笑の渦に包まれた。

結びに熊川知長祭儀部長先達による弥栄祈念が参列者全員で唱和され、閉会となった。

教主様、渡辺博先生この度は誠におめでとうございます。今後、ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

家族会元事務局長増元照明氏によるご発声

大扇子で参列者に御稜威が蒙ふられた

お誕生日を言祝ぎて

六月九日、大國神社祈祷殿において教主様七十五歳のお祝いと、併せて本教団相談役の仙台市議会議員渡辺博先生の古希のお祝いが盛大に執り行われた。

先ず、儀式に先立ち七ケ浜町への献金がなされ、奉告祭が執り行われた。

儀式後、本教団顧問参議院議員の和田政宗先生よりご祝辞を頂き、引き続き、教主様のこの度の壱千日謹行の模様を収めた映像が上映された。

統理様による祝詞奏上

教師階位を授けられた皆様

惟神道統百二十一年

笑顔のこぼれる家庭をつくりましょう

教主様謝辞

謝辞を述べられる教主様

皆さんありがとうございます。今日は渡辺先生のお祝いも合わせてさせて頂きました。渡辺先生おめでとうございます。

渡辺博先生は、昭和六十二年に仙台市議会議員に初当選され、開祖様の時代から本教団の相談役をお願いして参りました。最初は大泉鉄之助先生、そして、その次が渡辺博先生でした。私はお世話になった方々、教団関係者に、何かしらの形で御礼を申し上げたいと思っております。本日は渡辺先生にしっかり感謝を捧げさせて頂きます。

私は明治大学の学生時代には合気道をやっておりました。一年生で入った時の四年生で沖縄出身の上原という先輩に何かとお世話になりました。今、何としてもそのご恩に感謝をお伝え申し上げたく、先日、五十四年ぶりにこの御神山にお招きをさせて頂き、再会をさせて頂きました。昔のことがどんどん蘇って参ります。あの時、あの方にお世話になった等、様々に思い浮かんで参ります。私の命のある間にお返しをしておかねばと、そんな思いでございます。

さて、壱千日の謹行も本日で二八二日を修めさせて頂きました。まだまだ先は長いのですが、改めて神様の畏きを実感しております。先の壱千日の行が終わってから半年も経たないうちに、「**汝前行に入りて、幼い子供たちの命を助けるために祈りをなせ。幼い子供たちが虐待で親に殺されている。助けるために、さあ祈るべし。**」と。ご神示を賜り、それからはじまりました。九月一日に入行致しましたが、その後も悲惨な事件が次から次へと起きております。行政も警察も、後手、後手となり、この間も子供たちの命の灯が消えております。何故、こんな世の中に人の心になってしまったのでしょうか。何の罪もない、親に頼るしかない子供たちが、その親に殺されてしまうのです。最早、地獄です。亡くなって、あの世、幽世に行って、どんな思いで自分をいたぶった大人たちを見ているでしょうか。本当に忍びない思いです。「**幼き命が虐待で断ち滅ぶことがないような人の心、社会をつくらせて下さい**」と、毎日一心に拝んでおります。そして、ただ拝むだけではなく、教団の形が整ってきた時、何かしらの行動をなさねばなりません。〝大和は何をすれば良いか〟しっかりと定めて行動して参ります。

教主様・教母様と渡辺先生ご夫妻

大和の教信奉者は
五人善導の奉謝行を
実践致します。

令和三年には、統理も五十歳を迎えます。開祖様も五十の歳に教団を立教いたしました。私も五十の歳で第二代目を継承致しております。そういう中で神々も何かお考えがあられると思っております。五月一日から統理も私の行に随行させないという御神託が下りました。現在、保積志胤も私と一緒に朝の謹行にお仕えしております。何処まで持つかは分かりません。対外的な付き合いは一旦お休みを致します。新宗連の活動も然りです。新宗連には大変にお世話になりましたが、令和三年の成満まで休会致すこととし、その届けも先日出させて頂きました。教団は行に勤しむこれからの二年半になります。皆さんからも大きな力を頂きながら、信仰という真の大和の組織をつくるという思いで、対外的なお付き合いもお休みと致しました。私も統理も総監もです。総監は初めから、私とずっと行を続けております。その連れ添い、私の娘ですが、秀香君も一緒に行を執っております。教師たちも一人二人と毎日通うような動きも増えて参りました。

愛偉奈さまから花束をお受けになる笑顔の教主様

私は開祖様との最後のお約束として、この御神山で五千人を集めて教えを説くという、生前の開祖様とのお約束がございます。残念ながらそれが叶わないままに今日に至っております。統理たちは五千人ではなく一万人の人たちを集めましょうと今、一所懸命に頑張っております。一度に入り切れなければ午前の部、午後の部と分けても良いと思っております。このような計画の中で保積史子様という御方が、どの様な教えを説いて、そして大きな動きをなしてきたかを皆さんに知らしめねばなりません。それが私、二代目の大切な使命だと思っております。

『**大神の恩頼の吾が生命　世人のために捧げ尽くさん**』保積史子様という偉大な宗教家が残された、私たちへの尊い御教えです。どうぞ皆さんも己の命を世のため人のために尽くし下さい。そうすれば、自らの命も守られて、家族も必ず守られます。その徳を積むことだと説かれているのです。信仰者であれば開祖様の御教えの通り、大和の神々にお仕えして頂きたいものと願うものです。

本日はありがとうございました。感謝申します。

教主様への「感謝の気持ち」

六月九日大國神社において教主様が七十五歳となられる誕生祭と本教団相談役の渡辺博先生の古希のお祝いを申し上げる教主様御誕生祭が斎行されました。

教主様におかれましては、公には四度目となられる壱千日謹行の最中であり、祝賀会の冒頭においては、その貴重なる映像が上映され、ご参列の皆様に教主様のお祈りと教座会での御教導の様子が紹介されました。皆様教主様のお姿に深く心を打たれただご様子で、真剣にご覧になっておられました。

此の度のご修行におかれましては、『**幼き子供達が虐待などによって命が断ち滅ぶことのなき人の心を、社会をつくらしめ給へ、その力を我が大和に授け給へ**』と、日々必死のお祈りを捧げられ、北朝鮮による拉致被害者の一日も早い救出と、福島第一原発事故の収束と私達信仰者の願いをもお祈り下されておられ、次々とその祈蹟が顕れ、多くの方々が救われております。

これだけの尊い行を日々お仕えいただきまして、教主様、心より深く感謝申し上げます。私も、多くの人を教主様の謹行に結び導かせて頂きます。

教主様の尊きご修行は毎朝御本殿にてお仕えになられ、どなたでも参列が出来ます。信仰者の皆様には、是非とも教主様と共にお祈り下さい。

教主様壱千日謹行成満のお祝いをさせて頂く令和三年五月三十日には、大國神社で壱万人の大集会を開き、教主様から開祖様の御教えを御教導頂きます。

私たち信仰者は〝**一人が五人を導く**〟という善導奉謝行を一人ひとりが達成し、自らが信仰によって救われた感謝を表して参りましょう。

教主様、統理様のお導きを賜わりながら、私も教職員一同と、また信奉者の皆様方と力を合わせて壱万人の導き達成に向けて努力精進致します。教主様、日々ありがとうございます。

相双分祠長　齋藤真由美

寸劇を演じる齋藤真由美教師（左側）

大和神道禊祭

大和神道禊祭は、参行者自らが神身となり、神に連なり天地一切を清めなす本教一大特殊神事である。

大宇大宙天地一切清浄大神業祓禊

令和に入り最初の禊祭は、六月十六日執行の大國神社御鎮座神像境内社御清之儀より始まり、各御神像が綿津見之御神水にて清められた。

この後、全国に祀られし、御神像が御本宮にお鎮まりあそばされる還幸祭が執り行われ、翌、十七日からは午前六時よりの教主様壱千日謹行と併せて、神在祭が二十二日まで執行された。

二十二日は午後二時から前日祭が斎行され、祭儀後の直会も盛大に行われた。なお、本祭儀においては、金、紫、銀、白、赤、黄、緑の各色にて奉製された神籬木をお祀り申し上げ、各神籬木に天神地祇それぞれの御霊神をお迎え申し、更には霊界より御霊参行としての数多の霊神を禊の神業に仕え奉るべくお迎え申し上げた。

二十三日の本祭は梅雨晴れの下、午前九時三十分、副斎主統理様以下、祭員、随員は大鳥居前より参進、教主様は東側回廊よりそれぞれご入殿なされた。

儀式は先ず教主様より、天地一切清浄祓禊祭随員随霊代参参行奉告詞が申し述べられ、大宇大宙天地一切清浄大神業執行の旨が祈念された。

典儀により、大宇大宙清む〝天地一切清浄大神業〟が告げられると、参列者、諸員は御本殿前神庭へと移動、天神地祇の大真栄樹を先頭に、

本祭にて大和の祈りをお捧げなされる教主様

大國神社鎮座御神像御清之儀

各御霊神が宿りし七色の神籬木が随員により奉持され、厳かに神庭へと参進した。

続いて、統理様により火風結界秘言、旋転百焔の剣の神法、十字神傳神法、火壇点火が執行された。火祭壇の御神火は天に立ち昇り、祭員により火、塩、水、米、剣、酒之祓が順に執り行われた。また随員により大海原綿津見之御神水、天真井水にて参行者一同は清められた。

次に、教主様による神直日之神事、天沼矛之神傳、第五神界秘言が申され神事が厳かに執行され、御神柱を真中に大き輪となり、田中道敏教師先達により天之鳥船神事が執り行われた。

神人和楽おはやし行事では参行者一人ひとりが、教主様によりお清めを頂き祈念を申し上げながら御神柱を廻って御本殿へ入殿となった。

続く神籬木遷座の儀、玉串奉奠の後、教主様により大神業にお仕え奉りし御霊神達を祓禊祭修了奉告並御分霊帰還奉告詞を以てお送り申し上げた。

斎主教主様により神在祭が日々斎行された

斎主統理様のもと還幸祭が斎行された

おことばを述べられる教主様

国旗を先導に大鳥居前より随員参進

結びに教主様により、禊祭の尊さが説かれ、大物生大神の、「**我を敬い信ずるものには大きくものを生み与え申す**」との尊き御神徳を説かれ、壱千日謹行にての幼き命の救出、世直しについてご教導下された。

儀式後、八月に行われる仙台市議会議員選挙に際しての推薦状が、相談役の渡辺博先生に教主様より手渡され、渡辺先生より感謝と決意が述べられた。

引き続き、神庭へと移動し散餅散銭が執り行われ、参行者は尊き神々の福を授かり、弥栄祈念の後、祈祷殿にての直会をもって、本年の禊祭は無事申し修められた。

大き輪となり天之鳥船神事執行

渡辺博先生に推薦状を授けられる教主様

8月行事予定表

8月1日	月始祈願祭
8月3日	出羽三山登拝出立
	※青年会清掃登拝
8月5日	神光龍神祭
8月7日	七夕祭
8月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭
	出羽三山登拝下山感謝奉告祭
8月13日	お盆花慰霊祭
	日蓮宗関縁特別浄霊安鎮祭
	祖霊祭例年祭
8月15日	月次祭・祖霊祭・地蔵慰霊祭
8月24日	理事会・後期総合役員会
	教主様講演会
8月25日	みそぎ祈願行・開祖祭
8月28日	六根修養会

直会にて統理様のご挨拶

御神柱を真中に散餅散銭之儀が執り行われた

大和立教六十二年 開祖生誕百十二年

大和の祝り天地に満つ 靖國神社国民皆参拝を広めましょう

金剛蔵王大権現建立

大市神山にご鎮座あそばされし金剛蔵王大権現像

六月三十日、大國神社天神竝宮神庭にて金剛蔵王大権現建立之儀が斎行された。

金剛蔵王大権現は神変社に祀られし神変大神（役の行者）がその昔、末法悪世に苦しむ世の人々を救うために一心に祈り、顕現された権現様であり、そのお姿は火炎を背に青黒忿怒、悪魔降伏の姿であった。

本金剛蔵王権現像は開教社に祀られし大物生大神御神像、大國神庭に鎮座あそばされる大國主大神御神像を彫像なされた山形の石匠、石駒四代目松田駒蔵氏の遺作である。

金剛蔵王大権現像は台座を入れた高さが四メートル九十センチ程あり、境内に威風堂々と鎮座あそばされた。

祭儀に先立ち、大國神庭に祀られし金剛蔵王大神社に斎主教主様以下祭員はご祈念を申し上げ、祭場へと参進。

儀式は斎主教主様のもと執り行われ、先ず金剛蔵王権現像の清祓をなし、海川山野の神饌物が宇豆高く献じられ斎主教主様により御神霊鎮之儀が執り行われた。これにより金剛蔵王大神の御神霊が権現像にお鎮まりあそばされた。

続いて、建立祭詞が奏上され、斎主教主様玉串拝礼、来賓、参列者より玉串が献じられた。

儀式後、本像の建立を施工された山形の株式会社石駒取締役会長・石駒五代目の松田勝彦様よりご挨拶を頂戴し、続いて、教主様より喜びのお言葉を賜った。

引き続き、参集殿へと会場を移し、直会が催され、株式会社石駒代表取締役の松田勝行様と統理様よりご挨拶を賜り、有限会社山田工務店代表取締役山田孝一様による乾杯のご発声で開会となった。

これよりはこの世を強き御姿で救う尊い金剛蔵王大神として未来永劫に亘りご鎮座あそばされ、ご守護賜ることを願い上げるものである。

斎主教主様による御神霊鎮之儀

ご挨拶なされる石駒五代目松田勝彦会長

統理様により清祓が執行された

ご奉賛のおこころに感謝と御礼を申し上げます

篤信奉賛者御芳名

保積　秀胤　保積　初江　昌浦　早春
保積　志胤　平松　千明　八嶋はな子
吉田　來　紺野　和子　齋藤真由美
品川　弓　須田　公子　釼持　敦子
遠藤　恭子　牛島　久子　片桐　喜七
内村　行雄　横山　満也　井上　定雄
菅野　隆雄　木村　太一　板橋富寿子
田淵　要人　大堀きよい　佐々　早苗
桑折　秀行　苅宿　博旭　髙田　隆広
髙田　啓輝　阿部千穂子　齊藤　百華
千坂　智彦　秦　チエ子　日下　弘子
日下　明子　坂内　憲一　中島　和子
山田　みゑ　石川　忠子　石川　榮子
佐藤　浩一　石川　晴夫　山田　瑞希
高橋　一将　谷藤　宏一　冬澤圭一郎
鈴木　靖崇　安達　浩佳　安達由香理
柳井百合子　熊谷　浩一　鈴木　将野
下澤　柊　酒井　忠　志賀　裕子
本田　和彦　國分由美子　匿名者

随意奉賛者御芳名

近野　哲也　櫻井　哲夫　金谷　則子
犬飼　廣治　犬飼　和子　鷲尾　雅子
小鷹　英子　武田　和弘　三浦　美保
小幡　明子　川村ヨシ子　佐藤　正子
三浦　嘉幸　菱沼公美子　松本　優子
吉田　康平　橘井けさえ　小林　政明
後藤トモエ　石垣けさい　上垣　裕介
匿名者二名
佐藤義孝・清美　結城光男・清子
（敬称略・順不同）

金剛蔵王大権現建立由縁

時あたかも大化の改新、激しい戦乱の時代で世の中は乱れ人々は大変苦しんでいた。

そんな中、役小角は末法悪世に苦しむ人々を救うため金峯山で一千日の苦行を行じ、民衆を救うための力強き神を一心に求め祈り続けた。

すると弁財天や地蔵菩薩、釈迦如来、千手観音、弥勒菩薩が現れたが、「もっと強いお姿を」と念じたところ、凄まじい雷鳴と共に、青黒忿怒の蔵王権現が火炎を背に顕現された。

これこそ、正に悪魔降伏にふさわしい神と感じ、桜の木に御姿を刻み、金峯山の山上と山下の蔵王堂にお祀り申し上げた。

蔵王権現を本尊に頂いた役行者は、修験の道を整えながら国中を巡り、北は東北の羽黒山から立山、富士、御嶽、大山石槌山、英彦山、霧島に至るまで、日本各地の山々を切り開いた。

殊に役小角こと神変大神は、大國神社を創社なされた大和教団開祖・保積史子様の協力神ともなられ、多くの人々をみちびき、お救いなされてきた。

此度、当社の大國主大神石像を昭和四十八年三月に彫像されし山形市在住の石匠・石駒四代目松田駒蔵氏が平成八年に没する直前まで、鑿を入れ続けた、まさに生涯を賭した作品であったが、完成に至るは叶わずであった。

宮主・保積禮日公様が、奇すしき大神のみちびきの任に当社に建立せるを発願、大國主大神石像彫像にも関わりし石彫家・多田剛氏が松田駒蔵氏の遺志を受け継ぎて最後の総仕上げを施し、二十三年の歳月を経て甦りをみたものである。

役小角こと神変大神が、末法悪世を救わんがために顕現なされし大御心をもって、今世の荒びし世を、人々の御救いを乞い祈み奉りて、茲に建立するものである。

尚、この御尊像は奥羽山系蔵王山より産出されし安山岩、通称蔵王石をもって、彫像をみるものである。

令和元年六月卅日

大國神社

教主様壱千日壱千座の謹行
千五百座の教座善導救済の奉謝行

三百日修行す

六月二十七日、午前六時より、大國神社御本殿において教主様壱千日謹行第三百日目が厳修された。

教主様は、昨年九月一日より、幼き子供たちの生命を虐待等より救済せんものと、壱千日の大國神社日参謹行、並びに壱千五百座の教座会、五千人の善導救済の謹行に御入行されておられ、この七月二十四日には教座会参加者が、二、九五一名に達した。

先ず御本殿において日句祭が斎行され、斎主教主様が祝詞を奏上、祈願が大前に言上げられ、心願諸願成就が祈念された。

続いて、祖霊殿において日毎の祖霊万霊祭が斎行され、祭儀後の教座会において教主様は、「昨年の九月一日から行に入り、本日、三百日という一つの節目を迎えました。毎日、ひたすらに同じことを続けるだけですが、自分だけで拝むのと、神様と約束して拝むのでは違います。殊に皆さん方は、期間を定め、私を通してしっかりと神様にご奉告を申し上げて、お誓いをした時、行の力は更に大きく尊いものとなります。修行は神様、御霊と一緒に行います。だから力を頂けるのです。短期間の中で力を頂けるのが行の力です。神様は私たちを救うために、「心ですよ。魂ですよ」と申します。そのために祈りがあります。皆さん心の穢れは六根清浄で清めて下さい。決して留めないことです。その努力をして下さい。努力もせずに正しい心はつくれません。努力をしないで健康な身体もつくれません。よい飲み物・よい食べ物、頭、心をどう動かすか。鍛えていかなくてはなりません。心は自分でしか鍛えられません。信仰で鍛えるのです。

今日もここにも様々な方がおられます。全員を救わなくてはならないのです。私の言葉が皆さんの魂にどう響くかです。そのためにも教師は力をつけなくてはなりません。白い着物を着ること。それは覚悟です。生きているけど、もう死んでいるのです。自分の命は神様次第、その覚悟なのです。自分のことで云々では教師ではありません。全て神様にお捧げして、「さあ、私をお使い下さい。」との覚悟です。だから開祖様は、〝大神の恩頼の吾が生命　世人のために捧げ尽くさん〟とお詠みになられたのです。自分の命は自分だけのものではありません。世のため人のために全てを尽くす。信者さんのために尽くすのです。自分の時間、心、お金、全てを捧げる覚悟がなければ大和の教師ではありません。

皆さんは、六根清浄大祓という尊い祈り詞を何遍も唱えていくことによって心に留まるものが清まっていきます。大和には〝振魂神名奉称〟、〝鎮魂法〟という尊い行法が授けられております。萬のものの命、畏き力を私たちは頂いています。六十兆の細胞の命ですから、それは超、超能力なのです。大和の信仰をして行を執っていくと、夫々が尊いものを感じていきます。六十兆の命から守られている自分、それを思えるか、思えないかなのです。もう駄目だと言っている人は、何も思っていないのです。自分の命の尊さも知りません。勝手に自分を見下げて卑下して、粗末にしているだけに過ぎません。子供たちは陰湿な苛めや、虐待に遭い大変な苦しみの中で生きております。そうした子供たちをどうやって救うのか。それが私たち大和に課せられた使命なのです。他では救えないものを私たちはこれからどんどん救うのです。精神を病む、心を病む者を救わねばないのです。皆さんもどうぞ、そのために〝五人を導く〟導いて一緒に信仰するという団をつくって下さい。それが神様が一番喜ぶご奉仕です。自分だけの信仰はもう卒業して下さい。

令和三年五月三十日、この御神山を再び高天原と致します。開祖様がお出ましを頂きます。開祖様にお出ましになられ御教えを説かれます。私が開祖様となって、その心を伝えます。壱万人の人々。午前と午後に分けてもいいと思います。そのための五人なのです。どんどん輪を広げて下さい。それがこの世を救う大きな力となります。ありがとうございました。」との教えを下された。

こうして教主様は日々の謹行の結びの教座会において、神拝詞を基に大和の教義を紐解かれ、御教えを詳細に説いて下されておられる。

この度の壱千日大行は令和三年五月二十七日に成満の日を迎え、同じ月の三十日には成満を祝し一万人の大集会にて御教えを賜る計画である。

教主様の壱千日の祈りに教信奉者の皆も共に心を通わせて、祈りをなして頂きたいと願うものである。

300日目の謹行をお仕えになられる教主様

教座会にて大和御教えをご教授くだされる教主様

日句祭　参列者
日供祭　参列者
教座会出席者
二、九五一名
令和元年七月二十四日現在

一万人大集会に向けて
統理様情熱巡教

六月十九日、上山遥拝所に統理様をお迎えして支部長会議を行いました。この日は、横山満也さん、静江さんご夫妻、阿部安子さん、阿部絵美さんと品川弓先生、鏡の六名の参加となりました。

先ず、統理様先達にて大和の祈りを捧げ会議へと進みました。〝一人が五人をお導きして育てる〟をテーマに前回各自がリストアップしたお救いしたい方々の名簿を基にどの様に善導救済をしたら良いのかを話し合いました。

横山さんからは近所の友人の悩み事をお聞きして是非、禊祭に参列させたい。そしてお救いをしたいとの話となりました。品川先生に家祓を奉仕して頂き禊祭の尊さをお伝えする事となり早速、翌日の午前中にお伺いする事となりました。ご友人のご家庭は娘さんが二人おられ、長女の方が婿さんを頂き家を継いでおりましたが、ご主人と長女が続けて病気で亡くなられてしまったとのことです。高校生、中学生、小学生の三人のお子さんがいます。小学生の女の子はまだまだお母さんが恋しい年頃ですので次女である叔母さんにとてもなついているとのことです。そして、禊祭には婿さん以外の五名が参列されました。皆さんとても感動をされていたとのことです。また、不登校気味だった小学校一年生の女の子が翌日に自分から学校に行ったそうです。おばあちゃんが喜んで横山さんに連絡を下さいました。皆さんの願いが大神様に伝わったのだと実感致しました。お導きされた横山さんは大きな御神徳が授けられたことでしょう。

〝大和〟は人の幸せを願うことで自分が幸せに結ばれるという教えです。沢山の方々を善導救済する事でご自身が幸せに導かれます。〝一人が五人を導きお救い致しましょう。〟そして、世界の平和のために大和の信仰を世の中に広めて参りましょう。大和の神々を信じる者は必ず救われます。自信を持って善導救済を行って下さい。

教師　鏡　令宏

上山遥拝所（6/19）

会津若松教会（6/3）

相双分祠佐々木支部長親族宅（5/28）